

日本複合・防音床材工業会 令和5年度通常総会を開催

日本複合・防音床材工業会は6月14日、通常総会を大手町東京会館で開催し、正会員13社26名、賛助会員29社44名、来賓7名、総勢77名が出席した。

松川会長は「4月の住宅着工は前年同月比12%減、順調だった借家も前年割れが続いており、足元の市況は依然として停滞感がある。コロナ禍が明けて人々の関心ごとが住宅から旅行、飲食など遊興関連に移ってきているとの話もあり、厳しい環境が続くと思われるが、工業会として住宅がもっと魅力的なものとなるよう環境に配慮し、生活が豊かになるような建材を作って業界を発展させていきたい」とあいさつした。



＝あいさつする松川会長＝

工業会は今年度、運用を開始した床暖房試験規格の制度について引き続き関係機関と調整を図りつつ、より円滑な運用に向けての各種検討の推進、JAFMAのホームページ『フローリングナビ』のコンテンツ充実、会員交流の促進を図る事とした。

総会後は京大生存圏研究所 林知行特任教授による「目からウロコの木のはなし」と題する講演会が開催された。まさに目からウロコなお話を伺い、改めて木材の本質を知る事ができた。また4年ぶりに懇親会が催され盛況な中で閉幕した。

参考記事：日刊木材新聞社

